

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503924		
法人名	有限会社 アイ		
事業所名	グループホーム 澄川の丘：1階さくら		
所在地	札幌市南区澄川6条7丁目1番1号		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170503924&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスと併設しており、その中においての交流もあり社会性の維持にも繋がっている。また、環境面においても中学校がとて近くにあり朝夕と学生のにぎやかな声に自然と笑顔が出てきます。放課後は、部活動の姿を見に行ったり、吹奏楽の音が聞こえてきます。また、合唱コンクールへ参加したり地域とのつながりを大切にしております。ホームの前には栗林が広がっており春には、鮮やかな緑の葉をつけ、夏には栗の木の下でくつろぎ、秋には実りを収穫し、冬には白く雪化粧した栗林をみると四季を感じることが出来ます。こんなホームで私たち職員は入居者様から多くのことを学びながら、共に支えあい生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパー・公園・病院・学校・飲食店・バス停等に近く、利便性が良い。ユニット内はキッチンを中心とした機能的な造りで、家族が泊まれる部屋やくつろぎのラウンジもある。すべての居室はクローゼットが設置され、出窓やタンス置き場で、広く使えるように配慮している。居室の引き戸はそれぞれに色を変え、廊下のスポットライトも部屋間違いに効果を上げている。また各ユニットの風呂は、歩行が困難になっても座ることができる能力を生かし、座ったまま入浴ができるリフト浴を設置している。管理者及び職員は、利用者個別対応できめ細かな介護をし、信頼関係と馴染みの関係の中で共に過ごす日々を大切にしており、家族の信頼も厚い。事業所内でも楽しく過ごせるように、絵手紙・化粧・体操・コーラス・楽器演奏等の、ボランティアの訪問も多い。また夏祭りやクリスマス会等の家族参加の行事や、ドライブ外出・外食・買い物等地域での生活を実感できる活動を積極的に取り入れており、実習生や小・中学生の職場体験の受け入れは大変評価できる。定期的に開催している運営推進会議では、利用者の日々の様子や行事内容をスライドで紹介し、受診状況・研修参加報告・地域との交流・防災計画・行事予定と報告・事故報告等を話し合い、ケアの充実を図っている。地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく豊かな生活ができるように援助していく、という理念のもと、日々業務に取り組んでいる。また、理念は玄関にユニットの理念とともに貼り出している。	事業所の理念の他に、ユニット毎に理念を作成し、玄関ホールに掲示している。理念は会議等で確認するとともに、全職員で唱和しケアの実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、集まりや行事に参加させて頂いている。地域のお店や美容室を活用したり、ホームの夏祭りにも多くの地域の方々が参加して頂いている。	町内会に加入している。運動会・新年会等の地域行事に参加している。また事業所の夏祭りには、地域の人々が多数参加し、交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高校生のボランティアの受け入れをしている。また、中学生の職業体験実習やヘルパー実習の受け入れもしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年同様、二ヶ月に一度開催している。家族、町内会、包括支援センターの方に活動報告、事故報告(原因、再発防止策を含む)をお伝えし、利用者様の日々の生活の様子の写真をスライドに見て頂いている。また意見、助言、ご要望を伺っている。	定期的で開催している運営推進会議には、家族・町内会役員・地域包括支援センター職員等が出席し、行事予定と報告・事故報告・地域との交流・防災計画等が話し合われ、事業所の運営に効果を上げている。議事録は利用者家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区での管理者会議が定期的に行われており、毎回出席している。また、不明な点がある際は、出向いたり電話などを使用し連携できている。	行政とは、ケアサービスの疑問や質問等を随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員は運営推進会議にも出席し、意見交換を行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて身体拘束をしないケアについて学び、他職員にも伝達している。また、言葉がけにも特に注意をし、職員同士で意識を高めケアに取り組んでいる。問題が出た際にはカンファレンスで話し合い解決している。	日中は施錠していない。職員は利用者の様子をさりげなく見守り、安全面に配慮しながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。身体拘束に関するマニュアルは完備し、拘束のない自由な生活をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会にて、身体拘束、虐待排除の対応について学び、それを他職員に伝達し防止するよう努めている。また、職員でケアの振り返りを行い、協力体制の整った職場環境である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会が少ない。今後の勉強会のテーマとして取り組む必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族様にお会いし、十分な説明をし理解を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には普段の生活の中で、不満や要望等ないかお話ししている。ご家族様にも面会された際にお話ししたり、運営推進会議にてご意見、ご要望を伺っている。また、ホームの玄関先に苦情ボックスを設置している。	玄関入り口に意見箱を設置している。家族の来訪時に積極的に話し合いを持っている。運営推進会議にも多くの家族が出席しており、意見・要望は運営やケアに反映している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月のカンファレンス、リーダー会議等行い、意見等聞く機会を設けている。また、日々の業務内でも意見交換している。	管理者は毎月のユニット会議やリーダー会議で意見を聞いている。他に日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調やストレスに気を配り、また処遇改善交付金を活用し労働条件の改善を図っている。出産休暇、育児休暇の取得も出来、女性が働きやすい環境にある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修(勉強会)の実施、外部研修に於いても職員のスキルにあった研修の参加や自主的な参加希望に対しても、研修費や交通費の支給もしている。また、年に1度北欧(スウェーデン、ノルウェー他)への研修にも参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会議や南区の一部地域で計画作成者の勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とお会いし、認知症状・全身状態・生活状況を確認し、ご家族様や関係者からも情報をお聞きしている。職員間でも情報を共有し信頼関係を築けるよう検討し、ご利用者様の尊厳を大切に支えている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の事前面談においてホームを見学して頂き、ここでの暮らしを説明し、生活していくにあたっての不安やご要望をお聞きしている。そして安心してご利用して頂けるよう対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時等で、要望や不安等を聞き、それに応えられるよう、その方にあった支援を考慮し、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の気持ちを尊重しつつ、敬う気持ちを忘れずにお掃除や洗濯ものたたみ等お手伝いして頂き、残存機能を把握しながら、支援を行っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、普段の状況をお伝えし把握して頂きながら、ラウンジやお部屋でゆっくりと過ごして頂いている。また、夏祭りやクリスマス会等のホームの行事にも多くのご家族様が参加して頂き、一緒に楽しまれている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人等が面会に来られた際には、ご家族同様ラウンジやお部屋で楽しく過ごして頂けるよう努めている。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、友人・知人の訪問がある。併設サービスの利用者とも交流している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係も職員は把握し、席の配置等を配慮しながら、居間やラウンジで、お茶会や体操、レクリエーション等を行い、職員が介入しながらも談話をしたりし楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても年賀状を頂いたり、入院先へお見舞いに行ったりと関係は継続している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行動や言葉を職員間でしっかり申し送り把握をし、カンファレンスでは職員の見解を共有し、利用者様にとって居心地の良い環境作りに努めている。	家族から得た情報や、日頃の行動・表情・過去の生活歴を基に、思いや暮らし方の希望・意向をくみ取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様から生活歴やライフスタイル等をお聞きしその人らしい生活ができるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を生活記録に残し、利用者様の希望に沿ったケアに努めている。また、変化があった際には職員全員が情報共有し対応している。(連絡ノートを活用)		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで状態の把握やケアの検討を行い、担当職員はケアプランに沿ったモニタリングも行っている。それに基づいて計画作成担当者がアセスメント、評価、プランの見直し・作成している。	日頃の関わりの中で利用者の希望を汲み取り、家族からも情報を得、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。変化が生じた場合は、随時見直し実情に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表、生活記録、受診報告書等に記録し、ご家族様にも閲覧していただいている。職員間では連絡ノートも利用し、情報を共有しケアを実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスへ遊びに行き、レクリエーション等に参加している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの高校生のボランティアを受け入れ、お掃除や利用者様と一緒に過ごしてもらったりと支援を頂いている。消防の方には避難訓練の際に協力を頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の往診を行っており、体調不良時には、看護師と相談をし家族への連絡を経てかかりつけ医に電話連絡又は受診し対応している。	利用者希望のかかりつけ医を受診している。協力病院医師による往診や、通院は随時行われている。また病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。ホームには看護師が勤務している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師が往診の立ち合いや受診への同行も行き、日頃から利用者様の健康状態に関して相談(医療連携)している。また、夕方巡回にも来てくれる他、夜間においても何か異常があれば駆けつけてくれる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけお見舞いに伺い、入院中の状態を把握し、医療機関との情報交換、相談が可能となるように努めている。担当医とご家族様と方向性も検討している。また、利用者様の環境の変化がないよう通院でフォローできる際はそのように対応している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化の指針は説明している。重度化した場合はご家族様と話し合いをし、その方にとってよりよい環境でターミナルを迎える場所を共に考え支援している。また、常時医療が必要となった際にはホームでの対応には限界があることも説明している。	医療連携体制の下、『重度化した場合における対応に係る指針』を作成している。入居時から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを説明している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われている救命救急の講習を受けたり、マニュアルを作成し、いつも見れる場所に掲示している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災、避難訓練を実施している。また、消防への自動通報システム、セコムへの自動通報システム、スプリンクラーもある。緊急時の連絡網、協力体制は整えている。	年2回、消防署の協力のもと利用者と共に避難訓練を行っている。地域には参加を呼びかけ協力を得ている。非常通報装置・スプリンクラーは設置済み。セコムの自動通報装置もある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛けには注意をし、一人ひとりの人格の尊重をし、個性に応じて心に寄り添う声掛けを心がけている。	プライバシーや尊厳に関わる事は、周囲に配慮しながら行っている。また、個人情報には事務所で適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを日頃から把握するよう努め、会話や表情、行動等もよく観察し、思いを汲み取っていききたい。希望に沿った暮らしが出来るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを大切に、その方のペースに合わせた一人ひとりの希望に沿った生活が過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	保清を整える以外、月に一度美容師の方が来たり、希望時には外の美容室へお連れしている。メイクボランティアの方も来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段、もやしのひげ取りや味見等負担にならない程度に共に支援している。また、食後の茶碗拭き等も協力して頂いている。メニューも利用者さんの好きな物を取り入れながら作成している。	利用者の意見や嗜好を取り入れた献立を作成し、個々の嚥下や咀嚼状態に合わせて、調理をしている。盛り付け・片付け等を一緒に行き、共にテーブルを囲み和やかに食事をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はされていないが、栄養バランスを考慮し献立を作成している。また、水分、食事を把握し、嚥下状態により刻み食等、臨機応変に対応している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は義歯洗浄、歯磨きの口腔ケアを実施している。義歯は夜間(頻度を決めて)洗浄液につけて清潔を保持している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄表に記入している。表情やサインを読み取り、声掛けにてトイレへお連れしている。また、オムツを使用しているにも出来るだけトイレで排泄できるように介助している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導し排泄の自立支援をしている。4ヶ所あるトイレは使いやすく整備され清潔である。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り、ヨーグルトを摂取したり、水分を多く摂るよう心がけている。また、散歩や体操等で体を動かすように声掛けもしている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のご希望をお聞きしながら、体調の確認もし入浴を行っている。また、リフト浴も利用し安心して入浴できるよう努めている。	一人ひとりの希望や体調に合わせた入浴支援をし、希望があれば毎日入浴できる。リフト浴が設置され、座ったまま安心・安全に入浴できる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方にあった生活サイクルを大切に昼寝等されている。また、夜間気持ち良く眠れるように日中の活動を増やしたり、日光浴をされるよう努めている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理しており、名前、日にち、朝昼等袋に記載し、服薬時に確認し飲み込むまで見守りしている。薬が変更された際は、説明書に目を通し、目的、副作用、用法、用量を理解している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの潜在機能、出来る事を把握し日々の生活の中で発揮できるよう努めている。なるべく役割を持って頂き、負担のならない程度に家事等のお手伝いをして頂き、メリハリのある生活を送っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、天候、気温を考慮し、散歩、外気浴、買い物等にお誘いしている。また、ドライブ外出(小樽水族館)もしている。	心身の活性化につながるよう、日常的に近隣散歩や買い物に出掛けており、また花見や紅葉狩り・雪まつり見物等の行事外出も積極的にし、地域での生活が体感できる支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながら、ご自分でお財布を持ち、管理している方もいる。他利用者様で、ご希望される物があつた際は、職員と一緒に買い物をして対応している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があつた際は、電話はいつでもできるような体制を整えている。手紙は希望があつた際は、代筆等協力しながら、やり取りできるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下等の共用部分には、普通の家のような飾り付け、雰囲気作りをしている。また、普段の行事の写真を拡大し皆で見れるよう貼ったり、季節感を味わえるように季節ごとに飾り付けをし、居心地の良い環境作りをしている。利用者様にとっての不快な音や光には配慮している。	リビング・キッチン・浴室・トイレ・廊下等は広くゆったりとした造りになっており、温度・湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。1・2階にはウッドデッキがあり、日光浴や暖かい日の昼食・ティータイムに利用されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の他、ラウンジ、和室があり、時には併設のデイサービスへ遊びに行かれたりと、一人ひとりが自由な空間へ行き、自分にとってゆったりと充実した時間を送れるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、タンスやベッド、置物、写真、仏壇等の慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、一人ひとりのお部屋で居心地良く過ごせるように努めている。転倒の危険がある方は、ご家族様と相談し、安全な空間作りをしている。	各居室は出窓になっており、タンス置き場もあり広く使える。家具は自宅から使い慣れたものを持ち込み、家族の写真や手芸作品などが飾られ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全で自立した生活が送れるように福祉用具(歩行器)等の使用や、手すり(廊下、浴室、トイレ)の設置、床材はクッションフロア等住環境を整えている。また、浴室にはリフトを設置し、安心でゆっくりと入浴できるようになっている。		